

一保健所管内の小・中学生を対象とした喫煙行動 と関連要因に関する大規模調査研究

フジタ マコト
藤田 信*

目的 本研究は、小・中学生の喫煙行動に関する実態調査を実施し、その関連要因を明らかにして、小・中学生の喫煙対策の企画立案に資することを目的とする。

方法 静岡県A保健所管内の小学校35校、2,428名、中学校17校、2,316名に対して、無記名自記式の調査票によるアンケート調査を実施した。実施場所は学校の教室で、調査期間は、平成15年1月7日から2月17日までの間とした。回答用紙は、あらかじめ配布した封筒に回答者が封をしてクラス単位および学校単位にまとめ、郵送により回収した。

結果 小学生の非喫煙者は95.8% (男子94.7%, 女子96.9%), 前喫煙者は3.9% (男子4.9%, 女子2.9%), 時々喫煙者は0.2% (男子0.3%, 女子0.2%), 習慣的喫煙者は0.0% (男子0.1%, 女子なし), 中学生の非喫煙者は90.5% (男子87.4%, 女子93.7%), 前喫煙者は7.0% (男子9.1%, 女子4.9%), 時々喫煙者は1.4% (男子2.0%, 女子0.8%), 習慣的喫煙者は1.1% (男子1.5%, 女子0.6%) であった。小学生、中学生ともに20歳時に自分が喫煙していると「思わない」者は「思う (かもしれない)」者より喫煙経験者率が有意に低く、喫煙の習慣性が高くなるに従って「思う (かもしれない)」者が多くなる傾向であった。また、小学生、中学生ともに初めて喫煙した時の感想が「おいしかった」「気持ちよかった」「気分スッキリ」であった者は、「吐き気がした」「苦かった」であった者と比べて喫煙の習慣性の高い者が多い傾向であった。また、喫煙による健康影響について、ほとんどの項目で男女差はなかったが、「低出生体重児」で小学生、中学生ともに女子は男子より知っている者が多い傾向であった。また、小学生、中学生ともに朝食を食べないことがある者は、いつも食べる者と比べて喫煙経験者率が有意に高く、喫煙の習慣性の高い者が多い傾向であった。

結論 ①20歳時に自分が喫煙していると思わない者には非喫煙者が多く、喫煙の習慣性が高くなるに従って、思う (かもしれない) 者は多くなる傾向がある。②家庭、地域、学校の少なくとも1つが(すべてが理想であるが)、子どもたちにとって楽しい場であることは、喫煙防止の一助になるのではと考えられる。③喫煙防止教育では、身近な健康影響の危険性について説明することは重要である。④生活習慣の1つである朝食摂取が身に付いていない者には喫煙経験者が多く、喫煙の習慣性の高い傾向がある。

キーワード 小・中学生、喫煙行動、質問紙調査、現在喫煙者率、食習慣、喫煙防止教育

I はじめに

日本たばこ産業(株)の調査でも低下傾向であるが、その一方で、若年女性の喫煙率の上昇(女性が国の喫煙率は、国の調査ばかりでなく、女性全体では、平成15年に低下に転じた)と、未

* 静岡県総合健康センター健康科学課長兼健康増進課長 (前静岡県志太榛原保健所長)

成年の喫煙の低年齢化が問題としてとり上げられている。また、「健康日本21計画」において、未成年の喫煙の解消は重要な課題の1つに挙げられている。本研究は、喫煙対策の中でも禁煙・分煙ではなく喫煙防止について、また、その対象を未成年の中でも小・中学生に的を絞った対策の企画立案に資することを目的とする。

表Ⅰ 調査票の設問内容

(1)年齢、性別、学年	(15)禁煙外来を受診する条件(複数回答)
(2)初喫煙の時期	(16)禁煙外来の希望日時(複数回答)
(3)初喫煙の動機(複数回答)	(17)禁煙外来の医師
(4)初喫煙の感想・症状(複数回答)	(18)禁煙外来の付き添い(複数回答)
(5)喫煙継続の意思	(19)受動喫煙場所(複数回答)
(6)喫煙に対する両親の対応	(20)同居家族の喫煙者(複数回答)
(7)喫煙場所(複数回答)	(21)家族の喫煙勧誘(複数回答)
(8)1日当たりの喫煙本数	(22)主流煙と副流煙の知識
(9)タバコ入手元(複数回答)	(23)喫煙による健康影響の知識(複数回答)
(10)喫煙の習慣性	(24)こども部屋の有無
(11)20歳時の喫煙予想	(25)朝食の摂取状況
(12)過去の禁煙企図の有無	(26)両親の学校行事の参加
(13)現在の禁煙意思の程度	(27)両親のしつけ方
(14)禁煙企図時の相談相手(複数回答)	(28)その他

Ⅱ 研究方法

(1) 対象

静岡県A保健所管内の小学校35校（全69校）、82クラス（奇数または偶数クラス）、2,428名、中学校17校（全34校）、71クラス（奇数または偶数クラス）、2,316名とした。

(2) 方法

無記名自記式の調査票によって実施した。調査票は、各地区校長会と調整を行った後、各学校校長あての協力依頼文を同封して郵送し、回答者本人にも依頼文を付記した。なお、調査時の小・中学生の在籍数と回答者数も回答するよう併せて依頼した。設問内容は表Ⅰに示す。回答の方法は、選択肢の番号を記入することを基本とし、実施場所は学校の教室とした。回答用紙は、あらかじめ配布した封筒に回答者が封をしてクラス単位および学校単位にまとめ、郵送により回収した。なお、調査票の詳細については、直接、筆者に問い合わせられたい。

(3) 調査期間

平成15年1月7日から2月17日までの間とし

た。

(4) 集計と分析

集計は各設問の不明回答を除いたものについて行い、結果は χ^2 検定で有意差の有無を分析した。

Ⅲ 結 果

以下の記述で、「非喫煙者」は今までタバコを吸ったことのない者、「前喫煙者」は今までタバコを吸ったことはあるが今は止めて吸っていない者、「時々喫煙者」は現在時々タバコを吸っている者、「習慣的喫煙者」は現在習慣的にタバコを吸っている者、「現在喫煙者」は現在タバコを吸っている者で、時々喫煙者と習慣的喫煙者を合わせたもの、「喫煙経験者」は今までタバコを吸ったことのある者で、前喫煙者と現在喫煙者を合わせたもの、「20歳時の喫煙予想」は20歳になったときにタバコを吸っていると思うことを示す。

(1) 回答者の概要

小学校、中学校ともに全対象校から回答用紙

表2 回答者の学年・性別内訳 (単位 名、()内%)

	小学生				中学生			
	総数	4年	5年	6年	総数	1年	2年	3年
総数	2 386(100.0)	742(31.1)	790(33.1)	854(35.8)	2 303(100.0)	575(25.0)	774(33.6)	954(41.4)
男子	1 194(100.0)	383(32.1)	392(32.8)	419(35.1)	1 177(100.0)	299(25.4)	393(33.4)	485(41.2)
女子	1 192(100.0)	359(30.1)	398(33.4)	435(36.5)	1 126(100.0)	276(24.5)	381(33.8)	469(41.7)

が回収された。小学生2,428名中、調査票回収者は2,428名（回収率100%）、中学生では2,316名中、2,315名（同99.96%）であった。回答者の内訳は表2に示す。

（2）喫煙の経験、現在の喫煙状況、20歳時の喫煙予想

喫煙の経験は、小学生の全体で4.2%、中学生の全体で9.5%であった。また、現在の喫煙状況について、小学生では前喫煙者率3.9%、時々喫煙者率0.2%、習慣的喫煙者率0.0%、中学生では、それぞれ7.0%、1.4%、1.1%であった（表3）。

20歳時の喫煙予想について、小学生で「思わない（喫煙していない）」者の割合が61.6%、「思

う（喫煙している）」が6.7%、「分からない」が31.0%、中学生で、それぞれ63.4%、9.7%、26.3%であった（表4）。「思う」「分からない」「その他」を合わせて「思う（かもしれない）」とすると、小学生、中学生ともに「思わない」は「思う（かもしれない）」より喫煙経験者率が有意に低く、喫煙の習慣性が高くなるに従って「思う（かもしれない）」が多くなる傾向であった（表5）。

（3）初喫煙の動機

初めて喫煙をした動機（複数回答）について、小学生で「好奇心から（吸ってみたい）」と回答した者の割合が32%、「友人の勧め」が12%、「何となく」が34%、中学生で、それぞれ56%、26%、31%であった（表6）。

（4）初喫煙時の感想・症状

初めて喫煙したときの感想・症状（複数回答）について、小学生で「吐き気がした」と回答した者の割合が21%、「苦かった」が50%、「めまいがした」が12%、中学生で、それぞれ18%、38%、22%であった（表7）。小学生、中学生ともに、喫煙の習慣性の高い者は「吐き気がした」「苦かった」「めまいがした」で少ない傾向があり、「おいしかった」「気持ちよかった」「気

表3 現在の喫煙状況

(単位 名, ()内%)

	総 数	非喫煙	喫煙経験			
			総 数	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙
総 数	2 406(100.0)	2 305(95.8)	101(4.2)	94(3.9)	6(0.2)	1(0.0)
小学生男子	1 207(100.0)	1 143(94.7)	64(5.3)	59(4.9)	4(0.3)	1(0.1)
小学生女子	1 199(100.0)	1 162(96.9)	37(3.1)	35(2.9)	2(0.2)	—(—)
総 数	2 300(100.0)	2 081(90.5)	219(9.5)	162(7.0)	32(1.4)	25(1.1)
中学生男子	1 176(100.0)	1 028(87.4)	148(12.6)	107(9.1)	23(2.0)	18(1.5)
中学生女子	1 124(100.0)	1 053(93.7)	71(6.3)	55(4.9)	9(0.8)	7(0.6)

表4 20歳時の喫煙予想

(単位 名, ()内%)

	総 数	思わない	思う	分からない	その他
総 数	2 393(100.0)	1 475(61.6)	161(6.7)	742(31.0)	15(0.6)
小学生男子	1 200(100.0)	676(56.3)	112(9.3)	405(33.8)	7(0.6)
小学生女子	1 193(100.0)	799(67.0)	49(4.1)	337(28.2)	8(0.7)
総 数	2 296(100.0)	1 455(63.4)	222(9.7)	603(26.3)	16(0.7)
中学生男子	1 172(100.0)	648(55.3)	166(14.2)	351(29.9)	7(0.6)
中学生女子	1 124(100.0)	807(71.8)	56(5.0)	252(22.4)	9(0.8)

表5 20歳時の喫煙予想と現在の喫煙状況

(単位 名, ()内%)

	小 学 生					中 学 生				
	非喫煙**	喫煙経験				非喫煙**	喫煙経験			
		総数**	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙		総数**	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙
総 数	2 292(100)	92(100)	86(100)	5(100)	1(100)	2 076(100)	216(100)	159(100)	32(100)	25(100)
思 わ な い**	1 439(63)	38(41)	37(43)	—(—)	1(100)	1 377(66)	77(36)	72(45)	4(13)	1(4)
思 う(かもしれない)**	853(37)	54(59)	49(57)	5(100)	—(—)	699(34)	139(64)	87(55)	28(88)	24(96)
思	128(6)	28(30)	24(28)	4(80)	—(—)	129(6)	90(42)	50(31)	20(63)	20(80)
分 か ら な い	712(31)	25(27)	24(28)	1(20)	—(—)	556(27)	47(22)	35(22)	8(25)	4(16)
そ の 他	13(1)	1(1)	1(1)	—(—)	—(—)	14(1)	2(1)	2(1)	—(—)	—(—)

注 1) **p<0.001, 自由度1

2) 「思う」「分からない」「その他」を合わせたもの

分スッキリ」で多い傾向があった(表8)。

(5) 最近1か月間の喫煙
日数, 1日当たりの喫
煙本数, 喫煙した場所,
タバコの入手方法

最近1か月間の喫煙日数
について, 小学生で「なし

(吸わなかった)」と回答した者の割合が81%, 「1~2日」が17%, 「3~5日」が2%, それ以上はなく, 中学生で「なし」が64%, 「1~2日」が8%, 「30日(毎日)」が10%であった(表9)。

最近1か月間の1日当たりの喫煙本数について, 小学生で「1本未満」と回答した者の割合が72%, 「1~4本」が28%, それ以上はなく, 中学生で「1本未満」が26%, 「1~4本」が37%, 「20本以上」が17%であった(表10)。

最近1か月間の喫煙場所(複数回答)について, 小学生で「自宅」と回答した者の割合が72%, 「友人宅」と「公園」がそれぞれ11%, 中学生で「自宅」が62%, 「友人宅」が50%, 「学校の校舎外」が15%, 「公園」が37%, 「遊園地・ゲームセンター」が15%であった(表11)。

最近1か月間のタバコの入手方法(複数回答)について, 小学生で「自宅にあるタバコを吸った」と回答した者の割合は71%, 「誰かからもらった」は6%, 「自動販売機」はなし, 中学生で18%, 32%, 77%であ

表6 初喫煙の動機(複数回答)

(単位 名, ()内%)

	小学生			中学生		
	総数	男子 (n=67)	女子 (n=36)	総数	男子 (n=152)	女子 (n=73)
好奇心から	33(32)	20(30)	13(36)	126(56)	90(59)	36(49)
格好がいいから	2(2)	1(1)	1(3)	16(7)	13(9)	3(4)
大人の気分	4(4)	3(4)	1(3)	9(4)	7(5)	2(3)
家族の勧め	9(9)	4(6)	5(14)	21(9)	10(7)	11(15)
友人の勧め	12(12)	9(13)	3(8)	59(26)	43(28)	16(22)
何となく	35(34)	25(37)	10(28)	70(31)	38(25)	32(44)
分からない	14(14)	10(15)	4(11)	16(7)	12(8)	4(5)
その他	8(8)	4(6)	4(11)	9(4)	6(4)	3(4)

表7 初喫煙時の感想・症状(複数回答)

(単位 名, ()内%)

	小学生			中学生		
	総数	男子 (n=66)	女子 (n=38)	総数	男子 (n=151)	女子 (n=73)
吐き気がした	22(21)	14(21)	8(21)	40(18)	30(20)	10(14)
苦かった	52(50)	30(45)	22(58)	85(38)	55(36)	30(41)
めまいがした	12(12)	8(12)	4(11)	50(22)	36(24)	14(19)
おいしかった	3(3)	2(3)	1(3)	14(6)	8(5)	6(8)
気持ちよかった	3(3)	2(3)	1(3)	14(6)	8(5)	6(8)
気分スッキリ	3(3)	2(3)	1(3)	15(7)	11(7)	4(5)
忘れた	24(23)	16(24)	8(21)	70(31)	44(29)	26(36)
その他	11(11)	8(12)	3(8)	15(7)	9(6)	6(8)

表8 初喫煙時の感想・症状と現在の喫煙状況(複数回答)(単位 名, ()内%)

	小学生(n=104)			中学生(n=224)		
	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙
吐き気がした	19(90)	1(5)	1(5)	32(82)	3(8)	4(10)
苦かった	49(96)	1(2)	1(2)	72(85)	4(5)	9(11)
めまいがした	10(83)	2(17)	—(—)	33(67)	8(16)	8(16)
おいしかった	—(—)	3(100)	—(—)	7(54)	5(38)	1(8)
気持ちよかった	1(33)	2(67)	—(—)	9(69)	2(15)	2(15)
気分スッキリ	2(67)	1(33)	—(—)	6(43)	4(29)	4(29)
忘れた	23(100)	—(—)	—(—)	48(72)	15(22)	4(6)
その他	9(100)	—(—)	—(—)	10(67)	2(13)	3(20)

表9 喫煙経験者の最近1か月間の喫煙日数(単位 名, ()内%)

	総数	なし	1~2日	3~5	6~9	10~19	20~29	30(毎日)
総数	101(100)	82(81)	17(17)	2(2)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)
小学生男子	65(100)	53(82)	11(17)	1(2)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)
小学生女子	36(100)	29(81)	6(17)	1(3)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)
総数	217(100)	139(64)	17(8)	10(5)	8(4)	15(7)	6(3)	22(10)
中学生男子	148(100)	91(61)	13(9)	4(3)	5(3)	13(9)	4(3)	18(12)
中学生女子	69(100)	48(70)	4(6)	6(9)	3(4)	2(3)	2(3)	4(6)

った(表12)。

(6) 周囲の喫煙状況

最近1か月間の受動喫煙の場所(複数回答)

について、小学生で「なし（吸わなかった）」が26.6%、「自宅」が49.4%、「自家用車（の中）」が28.9%、「駅・バス停」が10.6%、「飲食店」が19.1%、「遊園地・ゲームセンター」が9.4%、中学生で、それぞれ31.8%、45.8%、21.8%、10.5%、18.3%、10.5%であった（表13）。

表11 最近1か月間の喫煙の場所（複数回答）

(単位 名, ()内%)

	小学生		
	総数	男子(n=11)	女子(n=7)
友人宅	13(72)	7(64)	6(86)
友人宅の園	2(11)	2(18)	—(—)
その他の	2(11)	1(9)	1(14)
	4(22)	3(27)	1(14)
	中学生		
	総数	男子(n=57)	女子(n=21)
友人宅	48(62)	31(54)	17(81)
学校の教室	39(50)	27(47)	12(57)
学校のトイレ	2(3)	2(4)	—(—)
学校の校舎外	6(8)	6(11)	—(—)
駅・バス停	12(15)	8(14)	4(19)
電車のトイレ	8(10)	4(7)	4(19)
公園	2(3)	2(4)	—(—)
遊園地・ゲームセンター	29(37)	24(42)	5(24)
飲食店	12(15)	6(11)	6(29)
デパート	10(13)	8(14)	2(10)
その他の	7(9)	4(7)	3(14)
	24(31)	16(28)	8(38)

注 小学生では、「学校の教室」「学校のトイレ」「学校の校舎外」「駅・バス停」「電車のトイレ」「遊園地・ゲームセンター」「飲食店」「デパート」は該当者なし。

表12 最近1か月間のタバコの入手方法（複数回答）

(単位 名, ()内%)

	小学生		
	総数	男子(n=11)	女子(n=6)
自宅にあるタバコを吸った	12(71)	8(73)	4(67)
誰かからもらった	1(6)	1(9)	—(—)
その他の方法	4(24)	2(18)	2(33)
	中学生		
	総数	男子(n=56)	女子(n=21)
自宅にあるタバコを吸った	14(18)	9(16)	5(24)
誰かからもらった	25(32)	18(32)	7(33)
自動販売機	59(77)	42(75)	17(81)
コンビニ、スーパーなど	9(12)	6(11)	3(14)
タバコ屋	2(3)	2(4)	—(—)
その他の方法	3(4)	3(5)	—(—)

注 小学生では、「自動販売機」「コンビニ、スーパーなど」「タバコ屋」は該当者なし。

表10 最近1か月の1日当たりの喫煙本数 (単位 名, ()内%)

	総数	1本未満	1～4本	5～9	10～14	15～19	20本以上
総数	18(100)	13(72)	5(28)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)
小学生男子	12(100)	7(58)	5(42)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)
小学生女子	6(100)	6(100)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)	—(—)
総数	76(100)	20(26)	28(37)	9(12)	3(4)	3(4)	13(17)
中学生男子	56(100)	15(27)	18(32)	7(13)	3(5)	3(5)	10(18)
中学生女子	20(100)	5(25)	10(50)	2(10)	—(—)	—(—)	3(15)

同居する家族の喫煙者（複数回答）について、小学生で「祖父」と回答した者の割合が20.6%、「父」が70.3%、「母」が17.6%、中学生で、それぞれ16.9%、72.1%、15.6%であった（表14）。

(7) 喫煙に関する認識と知識

喫煙による健康影響の全般的な認識について、小学生で「悪い」と回答した者の割合が94.3%、「大したことない」が2.9%、「悪くない」が0.4%、「分からない」が2.4%、中学生で、それぞれ93.7%、3.9%、0.5%、1.9%であった（表15）。喫煙による健康影響の全般的な認識と現在の喫煙状況の関係について、「大したことない」「悪くない」「分からない」を合わせて「悪いと思わない」とすると、小学生と中学生ともに「悪いと思わない」は「悪い」より喫煙経験者率が有意に高く、喫煙の習慣性の高い者が多い傾向であった（表16）。

タバコ煙の知識について、小学生で「副流煙」（正解）と回答した者の割合が40.5%、「同じ」が14.5%、「主流煙」が25.6%、「分からない」

表13 受動喫煙の場所（複数回答）

(単位 名, ()内%)

	小学生 (n=2,357)	中学生 (n=2,153)
なし	627(26.6)	684(31.8)
自宅	1164(49.4)	985(45.8)
自家用車	681(28.9)	469(21.8)
学校	92(3.9)	207(9.6)
駅・バス停	250(10.6)	227(10.5)
飲食店	451(19.1)	394(18.3)
デパート	212(9.0)	245(11.4)
医療機関	50(2.1)	35(1.6)
市役所・町役場	17(0.7)	19(0.9)
金融機関	38(1.6)	19(0.9)
遊園地・ゲームセンター	221(9.4)	225(10.5)
ホテル・旅館	144(6.1)	45(2.1)
その他の	219(9.3)	211(9.8)

が19.3%，中学生で、それぞれ41.4%，11.2%，36.2%，11.2%であった（表17）。

喫煙による健康影響の個別知識（複数回答）について、小学生で「発がん性」と回答した者の割合が74.4%，「肺疾患」が67.5%，「歯周疾患」が22.4%，「（未熟児）低出生体重児」が38.1%，「SIDS（乳幼児突然死症候群）」が12.9%，中学生で、それぞれ79.0%，85.3%，43.2%，61.6%，11.9%であった（表18）。

（8）食習慣と喫煙

朝食の摂取状況と現在の喫煙状況との関係を見ると、「時々食べない」「食べないことが多い」「いつも食べない」を合わせて「食べないことがある」とすると、小学生と中学生ともに、「食べないことがある」は「いつも食べる」より喫

煙経験者率が有意に高く、「いつも食べる」から「ほとんど食べない」になるに従って、喫煙の習慣性が高くなる傾向であった（表19）。

夕飯を週4日以上一緒に食べる人（複数回答）と現在の喫煙状況との関係を見ると、小学生と中学生ともに、「外食が多い」と回答した者の割合は、他と比べて喫煙の習慣性の高い者が多い傾向であった（表20）。

IV 考 察

本研究における喫煙経験者率の結果は、小学生男子が5.3%，女子が3.1%，中学生男子が12.6%，女子が6.3%であった。この結果は、小川ら¹⁾の中学生の調査、川畑ら²⁾の9都道府県で実施された調査、尾崎ら³⁾⁴⁾の全国調査と比較すると、

地域差のためか、それらの半分以下であった。寺尾⁵⁾の中学生の調査結果では、喫煙経験者は全体で30%，男子で37.9%（漸減），女子で22.8%（漸増）で、他と比べて相当に高いものと思われる。日本たばこ産業(株)が公表した「全国たばこ喫煙者率調査」(平成14

表14 同居家族の喫煙者(複数回答)

(単位 名, ()内%)

	小学生			中学生		
	総数	男子(n=924)	女子(n=914)	総数	男子(n=919)	女子(n=837)
祖父	378(20.6)	212(22.9)	166(18.2)	296(16.9)	169(18.4)	127(15.2)
祖母	80(4.4)	37(4.0)	43(4.7)	54(3.1)	27(2.9)	27(3.2)
父母	1 292(70.3)	635(68.7)	657(71.9)	1 266(72.1)	652(70.9)	614(73.4)
兄弟	324(17.6)	154(16.7)	170(18.6)	274(15.6)	148(16.1)	126(15.1)
姉	94(5.1)	48(5.2)	46(5.0)	224(12.8)	110(12.0)	114(13.6)
その他	30(1.6)	17(1.8)	13(1.4)	64(3.6)	29(3.2)	35(4.2)
その他	318(17.3)	169(18.3)	149(16.3)	243(13.8)	142(15.5)	101(12.1)

表15 喫煙による健康影響の全般的な認識

(単位 名, ()内%)

	小学生			中学生		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子
悪い	2 258(94.3)	1 121(93.3)	1 137(95.3)	2 142(93.7)	1 076(92.3)	1 066(95.1)
大したことない	70(2.9)	42(3.5)	28(2.3)	90(3.9)	59(5.1)	31(2.8)
悪くない	9(0.4)	9(0.7)	—(—)	11(0.5)	8(0.7)	3(0.3)
分からない	57(2.4)	29(2.4)	28(2.3)	44(1.9)	23(2.0)	21(1.9)

表16 喫煙による健康影響の全般的な認識と現在の喫煙状況

(単位 名, ()内%)

	小学生					中学生				
	非喫煙**	喫煙経験				非喫煙**	喫煙経験			
		総数**	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙		総数**	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙
悪い**	2 168(96)	83(4)	78(3)	4(0)	1(0)	1 956(91)	182(9)	143(7)	24(1)	15(1)
悪いと思わない ^{2)**}	120(88)	16(12)	14(10)	2(1)	—(—)	110(76)	34(24)	18(13)	7(5)	9(6)
大したことない	63(90)	7(10)	6(9)	1(1)	—(—)	65(74)	23(26)	12(14)	4(5)	7(8)
悪くない	6(67)	3(33)	3(33)	—(—)	—(—)	5(45)	6(55)	2(18)	2(18)	1(9)
分からない	51(89)	6(11)	5(9)	1(2)	—(—)	39(87)	6(13)	4(9)	1(2)	1(2)

注 1) ** P>0.001, 自由度1

2) 「大したことない」「悪くない」「分からない」を合わせたもの

年5月現在)によれば、成人男性の喫煙率は49.1% (前年比2.9%減)となり、男性喫煙者が調査開始以来初めて5割を割り込み、11年連続で低下し、男女合わせた喫煙率は30.9% (前年比1.8%減)で、7年連続して過去最低を更新したという。日本たばこ産業(株)は喫煙率の低下について、「景気低迷という構造的要因や健康への意識の高まりが考えられる」としているという。

本研究のアンケート調査では、小・中学生たちに「あなたは、おとなになったら(20歳になったら)自分がタバコをすっていると思いますか」(以下「20歳時喫煙予想の設問」)と質問した。この設問は、現在、未成年の喫煙防止対策の効果を評価する指標として広く認められているもので、設問に加えられた意義はきわめて

表17 タバコ煙の知識

(単位 名, ()内%)

	小学生			中学生		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子
副流煙(正解)	971(40.5)	494(41.1)	477(40.0)	945(41.4)	517(44.3)	428(38.3)
同じ主流煙	347(14.5)	167(13.9)	180(15.1)	255(11.2)	115(9.8)	140(12.5)
主流煙	614(25.6)	340(28.3)	274(23.0)	828(36.2)	428(36.6)	400(35.8)
分からない	463(19.3)	202(16.8)	261(21.9)	257(11.2)	108(9.2)	149(13.3)

表18 喫煙による健康影響の個別知識(複数回答)

	小学生			中学生		
	総数	男子 (n=1,192)	女子 (n=1,187)	総数	男子 (n=1,160)	女子 (n=1,118)
発がん性	1 770(74.4)	896(75.2)	874(73.6)	1 800(79.0)	932(80.3)	868(77.6)
心疾患	689(29.0)	366(30.7)	323(27.2)	572(25.1)	334(28.8)	238(21.3)
肺疾患	1 605(67.5)	816(68.5)	789(66.5)	1 942(85.3)	977(84.2)	965(86.3)
脳卒中	342(14.4)	192(16.1)	150(12.6)	677(29.7)	340(29.3)	337(30.1)
歯周疾患	532(22.4)	261(21.9)	271(22.8)	984(43.2)	493(42.5)	491(43.9)
低出生体重児	906(38.1)	423(35.5)	483(40.7)	1 403(61.6)	617(53.2)	786(70.3)
SIDS	308(12.9)	162(13.6)	146(12.3)	271(11.9)	153(13.2)	118(10.6)
依存症	1 143(48.0)	561(47.1)	582(49.0)	1 608(70.6)	803(69.2)	805(72.0)
気分スッキリ	412(17.3)	208(17.4)	204(17.2)	783(34.4)	406(35.0)	377(33.7)
気分落ち着く	443(18.6)	232(19.5)	211(17.8)	869(38.1)	445(38.4)	424(37.9)
仕事能率向上	54(2.3)	32(2.7)	22(1.9)	115(5.0)	69(5.9)	46(4.1)
分からない	216(9.1)	108(9.1)	108(9.1)	92(4.0)	60(5.2)	32(2.9)

大きい。本研究の調査結果から、20歳時喫煙予想をしない者は喫煙経験者が有意に少なく、20歳時喫煙予想をする(かもしれない)者は喫煙の習慣性の高い者が多い傾向であった(表5)。

表19 朝食の摂取状況と現在の喫煙状況

(単位 名, ()内%)

	小学生					中学生				
	非喫煙**	喫煙経験				非喫煙**	喫煙経験			
		総数**	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙		総数**	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙
いつも食べる**	1 986(96)	73(4)	69(3)	3(0)	1(0)	1 732(92)	148(8)	117(6)	24(1)	7(0)
食べないことがある ²⁾ **	307(92)	27(8)	24(7)	3(1)	—(—)	332(83)	66(17)	43(11)	7(2)	16(4)
時々食べない	258(93)	19(7)	18(6)	1(0)	—(—)	246(86)	39(14)	25(9)	3(1)	11(4)
食べないこと多い	38(88)	5(12)	4(9)	1(2)	—(—)	61(78)	17(22)	11(14)	2(3)	4(5)
いつも食べない	11(79)	3(21)	2(14)	1(7)	—(—)	25(71)	10(29)	7(20)	2(6)	1(3)

注 1) ** P>0.001, 自由度1

2) 「時々食べない」「食べないこと多い」「いつも食べない」を合わせたもの

表20 夕飯を週4日以上一緒に食べる人と現在の喫煙状況(複数回答)

(単位 名, ()内%)

	小学生(n=2,342)				中学生(n=2,233)			
	非喫煙	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙	非喫煙	前喫煙	時々喫煙	習慣的喫煙
祖父・祖母	840(97)	26(3)	—(—)	—(—)	710(94)	29(4)	9(1)	7(1)
父 母	1 884(96)	71(4)	4(0)	1(0)	1 733(92)	117(6)	21(1)	13(1)
兄 姉	1 076(96)	40(4)	2(0)	1(0)	820(92)	54(6)	11(1)	5(1)
弟 妹	996(96)	34(3)	3(0)	—(—)	992(93)	60(6)	7(1)	6(1)
外食が多い	19(86)	1(5)	2(9)	—(—)	19(76)	2(8)	1(4)	3(12)
その他	200(94)	12(6)	—(—)	—(—)	100(84)	11(9)	5(4)	3(3)

このことから、何らかの事情で20歳時喫煙予想の質問が設定できずに、現在の喫煙状況、あるいは喫煙経験の有無しか問うことができない場合であっても、それらの推移は、同一集団への喫煙防止教育の効果を縦断的に推測する手がかりになるのではないかと考えられる。

初めて喫煙したときの感想と症状は、ほとんどの者に吐き気やめまいなどの苦痛のある症状が生じていたが、ごく一部の者に「おいしかった」「気持ちよかった」「気分スッキリ」などの快楽的症狀が認められており、快楽的症狀のあった者は習慣性の高い現在喫煙者であることが多い傾向であった(表8)。このことから、ごく一部ではあるが、喫煙の当初から快楽的症狀の認められる小・中学生がいて、彼らの喫煙は習慣化しやすいことが推測されることから、小・中学生が快楽のために喫煙に手を出す必要のない状態にあること、例えば、家庭、地域、学校の少なくとも1つが(すべてが理想であるが)、彼らにとって楽しい場であることは、彼らの喫煙防止の一助になるのではないかと考える。

最近1か月間に喫煙した場所は、小学生では大多数が自宅であり、中学生では自宅がやや減って、友人宅や公園が増えて、遊園地やゲームセンターなどの不特定多数の大人のいる場所で喫煙することが多くなっていた。また、最近1か月間のタバコの入手方法は、小学生では大多数が自宅にあるタバコであり、中学生では自動販売機から得ている者が7割から8割に達しており、中学生でコンビニ・スーパーを入手方法に挙げた者は少数であるが、他の入手方法と比べて、習慣性の高い現在喫煙者が多い傾向であった(表21)。

最近1か月間に受動喫煙した場所は、小学生と中学生の間で大きな差はなく、自宅で5割、父母などが運転する自家用車の中で2割から3割、駅・バス停で1割、飲食店で2割、遊園地・ゲームセンターで1割であった。健康増進法が平成15年5月から施行され、公共の施設や公共交通機関の完全な分煙が法的に義務化されたことから、未成年の喫煙防止対策の推進の点からも、今後一層の分煙(必要に応じて禁煙)対策

表21 最近1か月間のタバコの入手方法と現在の喫煙状況(中学生): 複数回答

	総数 (n=76)	前喫煙 (n=28)	現在喫煙 (n=48)
自宅にあるタバコを吸った	14(100)	4(29)	10(71)
誰かからもらった	25(100)	8(32)	17(68)
自動販売機	58(100)	18(31)	40(69)
コンビニ、スーパーなど	8(100)	1(13)	7(88)
タバコ屋	2(100)	—(—)	2(100)
その他の方法	3(100)	1(33)	2(67)

が推進されることを期待したい。

喫煙による健康影響の全般的な認識では、認識に欠ける者は喫煙経験者であることが多く、習慣性の高い者が多い傾向であり(表16)、20歳時喫煙予想も高くなった。喫煙による健康影響の個別知識では、小学生、中学生ともに男女の区別なく、その8割前後が「発がん性」と「肺疾患」を選択した。その他は多くて3割程度が選択しているに過ぎなかったが、「低出生体重児」では中学生女子の7割が選択した。このことから、喫煙防止教育を実施するに際して、小・中学生にとって、身近な健康影響、例えば妊娠中の喫煙・受動喫煙による流産・死産・低出生体重児の出産などの危険性について説明することは重要であり、誤ったタバコの効用を科学的に否定して、正しい知識を植え付けることも重要であると考えられる。

喫煙行動は健康に影響を及ぼす因子の1つと考えられるが、他の健康影響因子として食習慣との関係をみたところ、朝食摂取の習慣の身に付いていない小・中学生には喫煙経験者が多く、習慣性の高い現在喫煙者が多い傾向であり(表19)、20歳時喫煙予想も高かった。阿部らの研究⁶⁾によれば、不規則な朝食の摂取は、ライフスタイルの夜型化によって就寝時刻が遅くなり、起床が遅くなって朝食を摂る時間がないことからもきているという。また、厚生労働省の平成13年度児童環境調査結果の概要⁷⁾によれば、1週間に家族そろって一緒に夕食を食べる頻度は、「毎日」が31.6%、「4日以上」が17.1%、「2～3日」が31.2%、「1日だけ」が10.9%、「ほとんどない」が7.3%であった。本研究では、夕飯を家族と一緒に食べずに外食で摂ることの多い小・

中学生は、他と比べて習慣性の高い現在喫煙者である者が多い傾向であった。家族と一緒に夕飯を食べることが精神面の健康に影響を及ぼしていると考えれば、これらのことから、喫煙している小・中学生は、喫煙していない者と比べて、他の健康影響因子とも関連していることが推測された。

最後に、本研究事業を1つの例として、全国各地で、「ヘルス・プロモーションの理念に基づき、学校が家庭・地域社会と密接な連携を保って健康上の諸課題に立ち向かっていく」⁸⁾という基本理念の下に、各関係機関、団体などが未成年、特に小学生、中学生の喫煙防止対策を推進されることを心から期待したい。

結びに、本研究の趣旨を温かくご理解いただき、全面的な支援を賜った静岡県教育委員会、教育長をはじめとするA保健所管内市町教育委員会ならびに各地区校長会役員の皆さま、アンケート実施校をお引き受けいただいた学校の教職員の皆さま、そして、何より、アンケートにお答えいただいた小学生、中学生の皆さまに、心から厚く御礼を申し上げます。

なお、本研究は、平成14年度厚生労働科学研究費補助金・健康科学総合研究事業「総合的な地域保健サービスの提供体制に関する研究」の分担研究「児童・生徒の防煙対策の焦点を明らかにするモデル事業」の中で実施されたもので

ある。また、同事業報告書は、すべての都道府県・政令市・中核市・特別区の各保健所・教育委員会に送付してあることを付記する。

文 献

- 1) 小川浩, 富永裕民. 中学生の喫煙－喫煙状況と関連要因－. 日本公衆衛生雑誌 1985; 32(6): 305-14.
- 2) 川畑徹朗, 中村正和, 大島 明, 他. 青少年の喫煙・飲酒行動－Japan Know Your Body Studyの結果より－. 日本公衆衛生雑誌 1991; 38(12): 885-99.
- 3) 尾崎米厚, 箕輪眞澄. わが国の中・高校生の喫煙実態に関する全国調査(第1報)中・高校生の喫煙率. 日本公衆衛生雑誌 1993; 40(1): 39-47.
- 4) 尾崎米厚, 木村博一, 箕輪眞澄. わが国の中・高校生の喫煙実態に関する全国調査(第2報)生徒の喫煙に関連する要因. 日本公衆衛生雑誌 1993; 40(10): 959-68.
- 5) 寺尾敦史. 中学生の喫煙行動調査および調査結果を用いて実施した喫煙防止教育. 日本公衆衛生雑誌 1999; 46(6): 487-97.
- 6) 阿部奈央, 芝木美沙子, 笹嶋由美. 小学生の血圧, 肥満と食行動に関する調査. 学校保健研究 2002; 44(1): 14.
- 7) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局. 平成13年度児童環境調査結果の概要(平成13年11月20日調査).
- 8) 高石昌弘. “Healthy School”の提唱. 学校保健研究 2002; 44(2): 100.